

令和5年度家庭教育支援実践交流会 開催報告

日時 令和6年1月25日(木)13:30～16:30

会場 滋賀県立男女共同参画センター 大ホール

参加人数 46名(会場参加のみ)

内容

○実践事例発表

- ・事例発表1:『効果的な事業展開 ～野州市の取組～』
野州市教育委員会事務局生涯学習課参事 菱沼 由美 氏
- ・事例発表2:『地域からの支え方 ～家庭教育支援チームの取組～』
近江八幡市立武佐小学校家庭教育支援チーム 富岡 早苗 氏

○助言:『親子が「笑顔に」先生も関係機関も「元気に」地域のすべての皆様の笑顔が増えますように』
講師:上村 文子 氏(滋賀県スクールソーシャルワークスーパーバイザー・家庭教育支援アドバイザー)

○グループ別情報交換

「実践事例発表から学んだこと、取り入れたいこと」、「家庭教育支援活動の成果と課題」
「来年度に向けて」等

○令和5年度家庭教育啓発ポスターお披露目および「キャッチコピー」最優秀賞受賞式

当日の様子



【参加者の感想より】

○つながりあう場を提供する。そして、それをサポートする役割の大きさを改めて学ばせていただきました。また、「こどものために」と、意志のある方々がたくさんいらっしゃるのを見て、ありがとうございます。

○学校関係者、教育委員会、地域の子育て支援者との連携が大切であることを教えていただきました。子育てに関して、サロンをつくっていくのが大切だと思いました。

○核家族化が進む中での「3世代交流」は重要で、素晴らしい企画だと思いました。一人ひとり子どもたちの境遇は異なると思いますが、「寄り添う気持ち」が大切だと感じました。縦方向の指導と横方向の共感。解決策を持てる人と共感を持てる人の両方が大切で、つながることが重要だと感じました。

○「ななめの関係」を意識して、家庭教育支援事業を進めていければと思いました。

○事例を通して、具体的な取組、親子へのかかわり方を知ることができました。グループ別情報交換で、他市の状況を聞いたり、悩みを話したりできてとても参考になりました。

○このような交流会に初めて参加しました。実践発表では、地域での学校を中心とした具体的な取組を聞かせていただき、子どもや保護者支援について考えるきっかけになりました。グループ別の話し合いも、いろいろな話が聞けてよかったです。人と人をどうつなげるか、どこをつなげるとよいのか、このことがうまくいくと、より効果的な力となって支援につながるのではと思いました。

○活動事例や情報交換で立場の違う方とお話しできたのがよかったです。一人の子を色々な立場の人が見守ることが大事だと思いました。

○学校、市とのチームプレーが必要かと思います。家庭教育支援員として、何ができるかを考えるきっかけを作ってください、ありがとうございました。

○様々な立場の方と話せてよかったです。地域の方(支援員さん)をもっとうまく活用すべきです。非常にもったいないと思います。学校と支援員さんがしっかりつながり、コミュニティ・スクールをもっと活用する取組に変えるべきだと思います。

○家庭教育支援員さんと学校とのマッチングが大きいと感じました。どのような方に支援員さんをお願いするのか、報酬も含めて任用について見通しを持って考えることが大切だと感じました。また、学校内に支援チームを作ることも大切だと思っています。

○子どもたちの居場所づくりをボランティアでやっています。この先、何が子どもたちに必要か考えながら活動したいと思います。

○家庭教育支援をCSの中にどうやって組み込んでいけばよいか、当初から課題に感じていました。まだCS1年目なので、まずは基礎・基盤を作ることが最優先です。個々の学校が軌道に乗ってきたら、全体の子どもへの支援と並行して対応を考えていかなければと思います。もっと広い協力を得られるようにチーム力を高めていく必要があります。

○多種多様な地域の取組を聞かせていただき、とても有意義な時間になりました。子どもをよくしたい、家庭に元気になってほしい、先生を助けてあげたいと思い、地域でボランティアで子どもたちに関わってくださっている方々がこんなにもたくさんおられること、その思いを知ることができました。しかし、その家庭にどう関わっていったらよいのか、関わりたいけどできないことでの悩みがあることを知りました。私自身、信頼関係をつくりながらつなげていきたいと思っています。